

## 教員養成に対する理念及び認定課程設置の趣旨等

### 1. 大学・大学院としての教員養成に対する理念及び認定課程設置の趣旨等

本学園の教育理念「人間になろう」は、豊かな人間性・広い学問的教養・高い専門的知識・能力を有する女性の専門的職業人の育成を目指して掲げられたものであり、この教育理念により本学の教育は形作られている。この教育理念は、人間尊重の精神に基づき、自己のより高い人間性の涵養を目指して、絶え間ない自助努力と自己実現に価値を置くものであり、女性の優れた資質・能力とともに、高い職業的能力の育成を目指したものである。

このような教育理念の下で学んだ女性にふさわしい専門職である教員として活躍しうる道を開くため、本学は、全学部、全研究科に教職課程を設置し、中学校教諭一種（国語、社会、数学、音楽、家庭、英語）、高等学校教諭一種（国語、地理歴史、公民、数学、音楽、家庭、情報、商業、英語）、養護教諭一種、栄養教諭一種、幼稚園教諭一種、小学校教諭一種、特別支援学校教諭一種の各教員の養成を行っている。

『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（（令和3年1月26日／中央教育審議会答申）において示された「令和の日本型学校教育」を担う教師及び教職員集団の姿は、換言すれば、教師としての専門的能力を有することに加え、自身を高め続けられる向上心、他者と協働するコミュニケーション能力、変化の激しい時代に適応する問題発見・課題解決能力を有する教師と言える。

本学では、教育理念「人間になろう」を踏まえ、これらの能力をあわせもった教員——つまり、高い専門性と豊かな人間性、優れた人格を兼ね備えた教員の養成を目指す。

また、保育園・認定こども園・幼稚園・小学校・中学校・高等学校・大学・大学院を擁する総合学園であることを活かし、教育実習やボランティア活動、現職教員との交流などの多様な側面で、併設校・附属校・附属園の活用、また地域の学校との連携に努める。

### 2. 認定を受けている課程を有する学科等の教員養成に対する理念及び設置の趣旨等

#### ● 生活科学部管理栄養学科（中一種免（家庭）・高一種免（家庭）・栄一種免）

本学科の属する生活科学部は、家政学部時代より長年多数の教員を育成し、愛知県及び近県の家庭科教育及び家庭科教員養成に大きく関わってきた。卒業生はこの地域の家庭科教育を担う一員としての強い責任感を持って職に就いている。今後も幅広く高度な専門性を持って生活科学および家政学を身につけた家庭科教員を輩出し続けることは、本学部・学科の使命でもありと考えている。

本学科は、戦後より栄養士資格を有する家庭科教員の養成に早くから取り組み、長年優秀な人材を育成してきた歴史がある。家庭科教員は大学における家政学・生活科学を「家庭科」という教科を通じ、次世代に伝える役割も持っており、本学部および学科で家庭科教員を養成することは、日々研究を重ねている家政学・生活科学を社会に伝える役目も持つと考えられる。特に本学科は、現在は管理栄養士資格を取得することを目標とした学科であり、栄養教諭と家庭科を併せ持つ教員を育成することも出来る。栄養に関する高い専門知識を持ち、加えて、家庭科教員としての他領域も習得し、生活全般を総合的に考えることの出来る教員を育成できる。また本学科は、食育の今日的な課題に取組める人材育成の場であると考えている。以上の理由より、栄養教諭ならびに家庭科の教職課程を設置している。

#### ● 生活科学部生活環境デザイン学科（中一種免（家庭）・高一種免（家庭））

本学科の属する生活科学部は、家政学部時代より長年多数の教員を育成し、愛知県及び近県の家庭科教育及び家庭科教員養成に大きく関わってきた。卒業生はこの地域の家庭科教育を担う一員としての強い責任感を持って職に就いている。今後も幅広く高度な専門性を持って生活科学および家政学を身につけた家

庭科教員を輩出し続けることは、本学部・学科の使命でもあると考えている。

本学科は、裁縫女学校に始まる被服領域の養成校でもあり、戦後早くから家庭科の教員養成に取り組み、優秀な人材を育成してきた歴史がある。家庭科教員は大学における家政学・生活科学を「家庭科」という教科を通じ、次世代に伝える役割も持っており、本学部および学科で家庭科教員を養成することは、日々研究を重ねている家政学・生活科学を社会に伝える役目も持つと考えられる。特に本学科は、現在、アパレル・メディア分野、インテリア・プロダクト分野、建築・住居分野の3分野を有しており、被服領域を専門とする教員、全国でも数少ない住居領域を専門とする教員を育成している。このことは、中部地区のみならず、全国の家庭科教育の教員養成や家庭科教育研究に寄与する部分は大きい。以上の理由より、家庭科の教職課程を設置している。

### ● 外国語学部英語英米学科（中一種免（英語）・高一種免（英語））

EUが複言語・複文化政策を採用し、ASEANの会議では英語が使用言語となるなど、母語以外に共通の言語を持ち、その言語を用いて意思疎通を図ることは、グローバル社会の安定と発展に欠かせないものとなってきている。国際社会を取り巻くこのような状況の中で、中学校や高等学校での英語科教育を通して、異文化を理解し、異文化の人のことばを聴き取り、異文化の人に向けて自分たちの文化や考えなどを発信できる能力を備えた人材を育成していくことは極めて重要なことである。

英語英米学科では、国際共通語としての英語の実践的運用力を身につけ、英語圏の社会と文化並びにグローバル社会の理念や現状について理解し、新しい価値創造に寄与できる人間を育成することを目標としている。そのために、インターナショナル・ティーチャーによるディスカッション形式の授業を教育の中心に置き、英語の総合的コミュニケーション能力の向上を図っている。また、多様な専門科目群の履修を通して、海外事情や異文化を受動的に理解するだけでなく、修得した知識と情報を能動的に活用できる能力も養成している。

こうした本学科での学修を基盤にして中学校教諭一種免許状（英語）や高等学校教諭一種免許状（英語）の資格を得た者は、英語科の教員として十分な英語運用能力と言語としての英語や異文化理解に関する専門的知識を身につけており、それは畢竟、上で述べたような国際社会の要請に呼応した人材を養成するための基本的能力を修得していることを意味している。

さらに本学科では、英語科教育に関わる専門的能力は言うまでもなく、生徒の全人的発達に寄与できる豊かな人間性も兼ね備えた中学校・高等学校の教員を養成することを通して、男女共同参画社会において期待される専門的職業人としての女性の一層の社会進出を支援することも目指している。

以上が、本学科の教職課程設置の趣旨である。

### ● 人間関係学部人間共生学科（中一種免（社会）・高一種免（公民））

本学科の教員養成の理念は、人間と人間共生に関する幅広い学問的知識、深い洞察力および総合的な判断力をもって、今日の学校教育における人間共生をめぐる諸問題を的確に捉えたうえで、そうした諸問題に対して意欲的かつ実践的に取り組む態度と問題解決能力が具わった教員が社会的に期待され要請されていると考え、そうした期待や要請に応えられる教員を養成しようとするところにある。この理念を実現するために、人が現代社会で生きていくときに直面するであろう、人間共生をめぐる下記の三つの問題を軸にして学ぶように、指導し方向づける。①家庭・学校・職場・地域など、人が生活するさまざまな場での多様性・包摂性・公平性をめぐる問題。②社会福祉分野と教育分野を横断する子どもや青少年の在り方・生き方をめぐる問題。③現代社会の中で自分自身がどう生きようとするかをめぐる問題。こうした指導と方向づけのもとで学びを積み重ねることを通して、深い洞察力や探究力および総合的な判断力を培うことのできた教員、これが本学科として養成したい教員像である。

上記のようにして、人間共生をめぐる現代的問題に向けての洞察力や探究力および総合的な判断力を培

うことを土台として、今日の教育問題に真正面から立ち向かい対処することのできる中学校社会・高等学校地理歴史・高等学校公民の教員を教育界に送り出すために、また、女性がプロフェッション（専門職）として活躍できる場を切り開くためにも、教職課程を設置した。

### ● 人間関係学部心理学科（高一種免（公民））

本学科の教員養成の理念は、人間と心理に関する広範な学問的知識、深い洞察力および総合的な判断力をもって、今日の学校教育における人間と心理をめぐる諸問題を的確に捉えたうえで、そうした諸問題に対して意欲的かつ実践的に取り組む態度と問題解決能力が具わった教員が社会的に期待され要請されていると考え、そうした期待や要請に応えられる教員を養成しようとするところにある。この理念を実現するために、人が現代社会で生きていくときに直面するであろう、人間と心理をめぐる問題に対して主として〈心理学の視点〉から理解し共感できるようになるための知識や技術について学ぶように、指導し方向づける。その学びは、次の四つの内容領域に分けることができる。①日常生活の行動の背景にある認知・感情・意思決定などのこころのメカニズムを理解する領域。②家庭・学校・地域といった社会における人々の行動や、より良い対人関係を考える領域。③乳幼児期から老年期までの人生を通じた人間の発達を理解する領域。④現代社会におけるこころの病や障害を心理学的に理解し、支援の方法を学ぶ領域。こうした指導と方向づけのもとで学びを積み重ねることを通して、深い洞察力や探究力および総合的な判断力を培うことのできた教員、これが本学科として養成したい教員像である。

上記のようにして、人間と心理をめぐる問題に対する洞察力や探究力および総合的な判断力を培うことを土台として、今日の教育問題に真正面から立ち向かい対処することのできる中学校社会・高等学校公民の教員を教育界に送り出すために、また、女性がプロフェッション（専門職）として活躍できる場を切り開くためにも、教職課程を設置した。

### ● 情報社会学部情報デザイン学科（高一種免（情報））

情報が、様々な資源と同等の価値を有する Society5.0 とよばれる超スマート社会は、デジタル化が社会の変化を加速させるとともに、新たな価値が創造される社会である。Society5.0 は、「第6期科学技術・イノベーション基本計画」では、「持続可能性と強靭性を備え、国民の安全と安心を確保するとともに、一人ひとりが多様な幸せ（well-being）を実現できる社会」と再定義され、教育現場では、「主体的・対話的で深い学び」による資質・能力や「持続可能な社会の創り手」の育成に加え、多様性を認め、それらに対応しながら、他者と協働し、これまでとは異なる思想や発想によって、新たな価値を創造していく姿勢が求められている。

情報社会における児童・生徒を取り巻く環境は、著しく変化し、検索アルゴリズムによる多様性を欠いた特定の情報のみに囲まれる「フィルターバブル現象」やデジタル化の作用による学校外での「同調圧力」、一斉授業のスタイルの限界等の新たな問題を生みだしている。しかし、一方で、ICTの活用は、このような情報化の影の側面を解決するための非常に有効な手段である。

このような背景の中で、情報を基盤とする社会インフラを支える IT 人材が圧倒的に不足している現状がある。高度情報社会を支えるためには、IT 人材の裾野を広げ、高度化を図ることが重要であり、情報の科学的な理解に裏打ちされた知識・技能に基づき、情報技術を活用した問題の発見・解決を行う実践的な活動を通してその解決に向け、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を育成する必要がある。

情報デザイン学科での本課程設置は、単に現代の情報社会への適応だけにとどまらず、日々進展していく現在の情報社会の種々の課題解決に必要な情報をデザインできる能力をもった教員養成に資するものである。

● 情報社会学部現代社会学科（中一種免（社会）・高一種免（地理歴史））

中一種（社会）

現代社会学科は、社会問題の解決に必要な情報分析力と情報発信力、新たな地域創造に向けた構想力と実践力、国際化に対応できる感覚と教養を身につけることを目標とし、そこでは、中学校社会に求められる、現代社会が抱える課題を追究し、実際に解決するための活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に関わり、民主的な国家や社会の担い手となる市民としての高度な資質・能力を育成する。

具体的には、世界や日本の地域構造や歴史、現代の政治や経済、国際関係等に関して理解を深めるとともに、地域調査や収集した諸資料から得られた様々な情報を効果的に分析する技能を身に付ける。そして、社会的事象の意味や意義、特性や相互の関連を多面的・多角的に考察し、現代社会に見られる課題の解決に向けて判断・選択する力、その思考過程を説明し、議論する力を養う。また、地域社会の担い手として、地域の誇りや愛着を涵養し、地域の伝統や文化を尊重することの大切さを内省する力を養う。

現代社会学科での本課程設置は、実践的な学びを通して、社会的事象を時間的空間的な広がりで見え、地域の環境条件や地域間の結び付きなどを人間の営みと関連付けながら、より善い社会を構築するために、社会課題に正面から向き合い対処することのできる中学校社会の教員養成に資するものである。

高一種（地理歴史）

主体的に社会の形成に参加するためには、社会秩序の変化を世界の歴史の中に位置付け、そして、他の国や地域との対比により自己理解と他者理解を深めることが必要である。また、グローバルな視座から国際理解や国際協力の在り方を、地域的な視座から防災などの諸課題への対応を考察することが求められている。持続可能な社会づくりを目指し、環境条件と人間の営みとの関わりに着目して現代の地理的な諸課題を考察しながら、実践的に課題解決を促す資質・能力を育成する必要がある。

具体的には、地球規模の自然システムや社会・経済システムに関する理解を深め、地理的事象を分析し、専門的概念及び地理的技能（地図やGISなど）を用いて事象の特色や相互関連を見出す力を養う。また、世界の歴史的・地理的な諸事象の規則性や傾向、地域構造や変容について高度に調査する技法を修得する。とりわけ、現代的な諸課題に関わる日本及び世界の近現代史の連関について留意し、地域調査等を通じて収集した情報を、地球的課題として位置付けて分析報告する力を養う。災害、気候変動、エネルギー問題、紛争、貧困、都市・居住問題、感染症といった複雑に絡み合う数多くの現代的課題に向き合い、地域や日本や世界のあり方を意欲的に構想する力を養う。

現代社会学科での本課程設置は、グローバルに思考しローカルに活動する実践的な学びや、人々の生活文化のあり方を地理的歴史的脈絡に位置付けて思考する学びを通して、現代的な諸課題を時間認識と空間認識に基づいて捉えることができ、かつ多様な人々との共存する能力を有した高等学校地理歴史の教員養成に資するものである。

● 現代マネジメント学部現代マネジメント学科（中一種免（社会）・高一種免（公民）・高一種免（商業））

国際化、情報化が進み、価値観が多様化している現代社会において、マネジメント能力は、企業のみならず、個人や家庭の生活、地域行政、国家・国際分野に至るまで、さまざまな場面で求められている。本学科では、企業経営、公共政策に関する知識を拠り所に、目標の実現に向けて筋道を立てて合理的に課題を克服していくマネジメント能力を備えた学生の育成を目指している。教員養成においても、学部・学科の特性を活かし、現代社会の特徴と今後の社会の変化の方向性を適切に理解し、マネジメントに関する高度な専門的知識と実践的能力を有する教員を育成することを目標としており、一方で、公共政策（経済、法律、政治）に関する専門教育科目の履修を通して中一種（社会）ならびに高一種（公民）の教員に必要

な知識や態度を、他方で、企業経営（経営、会計）に関する専門教育科目の履修を通して高一種（商業）の教員に必要な知識やスキルを修得させる。また、その結果として、当該学部・学科においては、グローバルな思考と現代社会を分析するセンスをもち、柔軟で実践性の高い問題解決能力を備えた教員を輩出することを目標とする。

当該学部・学科の前身である生活科学部生活社会科学科では、家政系学部の一学科として、地域に多くの家庭科教員を輩出してきたが、平成15年度に同学部同学科を現代マネジメント学部現代マネジメント学科として再編成するにあたり、過去の教員養成の実績の上に立ち、さらに上記の新たな教育目標に鑑み、中一種（社会）、高一種（公民）、高一種（商業）の教育課程を設置することとした。中一種（社会）、高一種（公民）では、専門教育科目で身に付ける社会的課題の多面的な考察力や問題解決能力を学校教育における生徒たちの基礎的、発展的な能力育成に活用するために、高一種（商業）では、専門教育科目で培うビジネスの合理的な遂行能力を高等学校で商業に関する学科に学ぶ生徒たちの実践的能力育成に活用するために、それぞれの課程を設置することにした。各課程の設置はまた、中学校及び高等学校の教員をめざす学生たちのニーズにも応えるものであるといえる。

● **教育学部子ども発達学科（幼一種免・小一種免・中一種免（国語）・中一種免（数学）・中一種免（音楽）・高一種免（国語）・高一種免（数学）・高一種免（音楽）・特支一種免）**

今日、わが国では、国際化、高度情報化、都市化、少子高齢化が進行し、人々の価値観が多様化する中で、新たな時代の課題解決に寄与できるような保育、教育の担い手が求められている。新たな時代の課題解決に寄与できる教員とは、対人関係能力、自己制御能力、課題解決能力を持ち、子どもの学び、発達や特性、子どもを取り巻く環境及び教科についての見識があり、教職に対する使命感、教育愛及び国際感覚を持った教員を指す。教育学部では、このような資質能力を持った保育士・教員の養成、すなわち、人間力と専門的能力を兼ね備えた人材の養成を教員養成の理念・構想としてその実現に努めている。

教育学部子ども発達学科は、小学校及び幼稚園の教員の養成を主たる目的とする学部、すなわち、小学校及び幼稚園教員の両方又はいずれか一つの免許状の取得を卒業要件としており、併せて中学校及び高等学校教員（国語・数学・音楽）並びに特別支援学校教員の養成課程を有し、教育と保育に関する体系的な教育研究を通して、人類の福祉と子どもの健全な発達に貢献できる高度な専門性を備えた、子どもの教育・保育に関する専門的人材を養成する総合的な教員養成学部として、実践を積んできた。

本学科には、保育士の同時取得を目指した幼稚園教諭、幼稚園教諭または中学校・高等学校教諭との複数学校種免許の同時取得を可能とする小学校教諭、国語の指導に長けた中学校・高等学校教諭（国語）、算数・数学の指導に長けた中学校・高等学校教諭（数学）、豊かな芸術的感性と演奏技術を兼ね備えた中学校・高等学校教諭（音楽）、一人一人の教育的ニーズに応じ可能性を引き出すことのできる特別支援学校教諭の教員養成課程を設置する。

● **看護学部看護学科（養一種免）**

我が国の保健・医療・福祉をめぐる環境は、急速な少子高齢化の進展、患者や地域住民の意識・ニーズの多様化、医療技術の進歩等から大きく変化してきており、養護教諭を含む看護職者には、より患者（児童・生徒）の視点に立った質の高い看護の提供が期待されている。21世紀のこれからの保健・医療・福祉の現場においては、援助に携わる専門家に対して、基礎医学をはじめとして、多様な専門分野の知識・技術が教育され、多様な専門家との連携協働ができる人材であることが求められている。

さらに養護教諭が関わる子どもたちを取り巻く社会的な背景として、虐待などの心理社会的な課題が指摘され、子どもたちが示す援助へのニーズもまた複雑化してきている。学校保健を担う養護教諭にとって、医学を含む高度な専門的知識に加えて、子どもたちとの関係を構築し、その潜在的あるいは顕在化した課題に共に取り組もうとする質の高い援助技術が今まで以上に期待されている。さらに学校と

いうコミュニティの中で、子どもたちが安定して成長・発達することを可能とするために、予防・健康増進を推進する健康教育の専門性を十分に発揮できる養護教諭の養成が期待される。

看護学部は、学園の教育理念「人間になろう」の精神に則り、生命の尊厳と人間に対する総合的な理解に基づき、健康の回復と維持・増進に関わる看護に関連する専門の学術を教授研究し、看護職者として必要な専門的知識と優れた技術、そして人々の健康な生活に貢献できる創造性と高い倫理観を備えた人材を養成することを目的としている。専門課程で学ぶ医学的専門知識及び技術と、様々な臨床の現場で学ぶ臨地実習体験から看護職者としての幅のある教養と理解を深め、また学園の教育理念にも通じる人と人との心通う人間関係の中で、自らの専門性を役立て、社会に貢献しようとする態度によって、援助対象である患者（児童・生徒）の価値観を尊重し、対象の立場を理解した上で、個人や地域の課題を解決し、生涯にわたって知識・技術の研鑽に努める看護職者を養成する。

本学部では、学部設置の趣旨を背景として、希望する学生に対して、養護教諭一種免許状を取得できる教職課程を置くこととし、卒業要件の科目・単位に加えて、免許状取得に必要な科目を習得した学生は、卒業と同時に養護教諭一種免許状を取得可能とした（定員10名で、1学年終了時に希望者に対する選考試験を実施）。本学部において、看護・保健の専門的な知識及び技術を身につけた養護教諭を養成することは、学校保健分野における社会的要請に応えるものである。

#### ● 生活科学研究科食品栄養科学専攻（中専免（家庭）・高専免（家庭））

本研究科の母体である、管理栄養学科および生活環境デザイン学科からなる生活科学部は、家政学部時代から長年にわたり多数の教員を養成し、卒業生は愛知県および近隣地域の家庭科教育に大きく貢献してきた。本研究科では、そうした学部教育課程に加えて、より高度な生活科学の専門性を有する家庭科教員（中学校・高等学校教諭専修免許）を養成することが社会的使命である。

管理栄養学科は、愛知県を中心とした東海地域において栄養士管理栄養士を輩出してきたが、現在は管理栄養士の国家資格を取得することを一義的な目標とした学科となっており、家庭科教員（中・高）に加えて栄養教諭養成も行っている。生活科学研究科食品栄養科学専攻では、管理栄養士としての食品、栄養、および健康に関する高度な専門知識を併せ持ち、生活科学全般を総合的に捉えることができ、中学・高等学校の教育現場において指導的な役割を担うことができる教員を養成していく。以上の理由より、家庭科の教職課程を設置している。

#### ● 生活科学研究科生活環境学専攻（中専免（家庭）・高専免（家庭））

本専攻が基盤を置く学部の生活科学部は、家政学部時代より長年多数の教員を育成し、社会に送り出している。本専攻では、そうした学部教育課程を基本として、より高度で先端的な専門性を持つ教育・研究を行っており、大学院でのレベルの高い家庭科教育に関わる生活環境学を修得した上で専修免許（家庭）を取得して、その資格を持つ教員を輩出しており、そのことは社会貢献の面からも本専攻の大きな使命である。

本専攻は、古くは裁縫女学校に始まる被服領域の養成校でもあり、戦後より家庭科の教員養成に取り組んできた歴史を有する学部を基礎として設置されたが、複雑化する社会や経済構造、変化する生活様式の中で、より高度な専門性を有し指導的役割を果たす家庭科教員の養成が強く要請されている。本専攻は、人間を核としてアパレルメディア、インテリア・プロダクト、建築・住居の3領域を有しており、学際領域も含めた高度で先端的な教育・研究を通して、幅広い専門性を持つ指導的な家庭科教員を養成できる専攻である。こうした教員養成のシステムは中部地区のみならず、全国の家庭科教育の教員養成や家庭科の教育・研究に大きく寄与するものとする。以上の理由より、家庭科の教職課程を設置している。

● **人間関係学研究科人間関係学専攻（中専免（社会）・高専免（地理歴史）・高専免（公民））**

人間と人間関係に関する幅広い学問的知識をもち、本研究科において醸成された総合的な判断力と深い洞察力により、今日の学校教育における人間関係をめぐる諸問題を的確に捉え、また、現代社会における人間に関わる諸問題についての問題解決能力をとまなう実践的な教員を養成することを目指す。

本研究科は、臨床心理学、人間共生の二領域からなり、人間と心理をめぐる現代的課題、もしくは人間と共生をめぐる今日的課題にたいする探究力及び問題解決能力を培うことを目的とし、今日教育問題に直面し対処する中学校社会・高等学校地理歴史・高等学校公民の専修免許状を有する教員を養成する。また、女性がプロフェッション（専門職）として活躍できる場を切り開くのみならず、教員のリカレント教育のためにも、教職課程を設置した。

● **現代マネジメント研究科現代マネジメント専攻（中専免（社会）・高専免（公民）・高専免（商業））**

本研究科では、現代マネジメント学部における教員養成課程をベースに、より高度な専門的知識と、より豊かな人間性を有する教員の養成を目指す。

本研究科で育成しようとする教員像は、研究科設置の理念等を踏まえ、以下の3点を特徴とする。

- a. 「イノベーションマネジメント能力」を有し、社会科学の諸領域における知識体系を複合的に活用して、現代社会における諸課題を適切かつ合理的に解決することができる教員
- b. グローバルな思考を有し、内外の社会経済の発展のための諸方策を具体的に提案することができる教員
- c. 豊かな人間性と経営・経済センスを有し、男女共同参画社会における知的リーダーとして、教育・研究能力を発揮できる教員

本研究科においては、上記のa～cの特徴を具備し、広く多様な視点から現代社会を分析する力と、柔軟で実践性の高い問題解決能力を備えた教員を養成する。

● **教育学研究科教育学専攻（幼専免・小専免・中専免（数学）・中専免（音楽）・高専免（数学）・高専免（音楽））**

本研究科は、教員養成およびそのための研究を設置目的としており、教員養成の理念は本研究科の理念そのものである。

本研究科は、「人間になろう」との本学園の教育理念に則り、高い知性と豊かな人間性を持つとともに、現在学校教育に求められている教員の資質、特に思考力・判断力・表現力等を育成する高い実践的指導力を持ち、知識・技能の絶えざる刷新のために、教職生活全体を通して教育について探求し続けることのできる高度専門職業人としての教員を養成し、その要請のための理論的・実践的研究を行うことを目的とする。

この理念に基づき、本研究科における教員養成は次のような特色を持つものとして構想されている。

- a. 「研究し続ける教員の養成」を教育の主目的とし、そのための理論的かつ実践的な研究を行う。
- b. 教科教育の実践的研究を重視し、特に校種をまたいだ系統性、教科間の関連に配慮した研究教科指導法と教科専門とを架橋する研究を積極的に推進してその成果を教授する。
- c. 教科としては、基礎となる教育学部の特色に鑑み、音楽を含む表現系および数理系の教科を中心とし、それらの教科教育能力を持つ教員を養成する。
- d. 基礎理論と実践との往還により高度な教職についての知識能力を持った教員を養成する。
- e. 長期教育実習を必修化し、実践的な研究の場とする。これにより、理論的知識と実践力がより高度かつ均衡の取れた教員を養成する。
- f. 義務教育課程（小学校中学校教育）に重点を置いた実践的教育研究を行い、特に小中の接続にも配慮して、小中一貫した教育が行える教員を養成する。